

ピアサポート活動について

1. 経緯

「ピアサポート」とは、一般に「同じような立場の人によるサポート」といった意味で用いられ、同じような課題に直面する人同士が互いに支え合うといった点において、課題解決の大きな力になり得ると考えられている。また、ピアサポートは一方的な効果のみならず、ピアサポートをする認知症当事者自身も自身の経験を生かして‘他者を勇気づけ、希望を持てるように支援する’という価値ある仕事をするにより、正当な対価を得ることができる。認知症当事者も地域を支える一員として活躍することで、社会参加の促進を図ることを目指している。本市における認知症の当事者同士によるピアサポートは、特定の医療機関や当事者、家族会等において実施されているが、そこでは当事者同士が互いの経験や生活の工夫などを話し合うことにより、前向きな気持ちになれるということが十分に確認されている。

2. 今年度の取り組み状況

○認知症カフェへの認知症当事者派遣事業（出張おれんじドア）

認知症介護研究・研修仙台センターへ委託している「認知症カフェ推進事業」の一環として実施。仙台市に約 80 カ所ある認知症カフェに対して認知症当事者（おれんじドアメンバー）とパートナーを派遣した。認知症当事者が地域のカフェに直接出向き話をする事で認知症当事者の役割と発信の場をつくり、‘認知症だからできること’をキーワードに本当の意味で認知症に理解のある地域づくりを進めていくきっかけとした。

(1) 派遣内容及び訪問回数

- ・1回講話 30分 認知症の本人1名、及びパートナー1名
- ・令和元年度はモデル事業として、月1~2回、概ね6~7カ所への派遣を考えていたが想定以上の申込みがあり、認知症のご本人の意向により10カ所に対して訪問し講話を実施。

(2) スケジュール

令和元年 7月	市内地域包括支援センター、カフェ運営者へ出張おれんじドア申込案内
7月22日 ~8月29日	認知症介護研究・研修仙台センターにて派遣申込の受付開始

9月7日	東北福祉大学ステーションキャンパスで開催されている「土曜の音楽カフェ」にてパイロット版を開催
10月	出張おれんじドア スタート

(3) 事業効果(令和2年1月11日認知症カフェセミナーでの報告より)

当事者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験が他の人の役に立つなら話してみようと思って講師を引き受けた。自分のリハビリにもなる。自分が元気になる ・認知症になったとしても、がっかりするだけではない。復帰することもできると伝えたい。 ・外の人とつながりを作っておくことが認知症の「備え」となっている。 ・自分を変えてやれることをやろうと思った。積極的にやっていきたい。
パートナーの声	<ul style="list-style-type: none"> ・講師をした後の当事者の歩く歩幅、姿勢、声のトーンが変わる。人前で話すという責任感が大きく影響しているのだと思う。
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になっても大丈夫だと感じたとの声あり。 ・カフェの規模であればストレートに伝わる。当事者の話を聞いて気持ちが動くのを実感した。

3. 今後の取組みについて

ピアサポート活動支援事業として令和2年度、以下の事業を実施する。

(1) 認知症カフェへの派遣

今年度の派遣実績のある認知症介護研究・研修仙台センターへ委託

(2) 認知症疾患医療センター等への派遣

センター各1回を予定